

寺田大歳神社の手水石・竈

分類 手水鉢・竈
年代 【手水石】明治四年

所在 寺田

【竈】 不詳 (一八七二)



寺田地区の公民館前に大歳神社がある。境内には貴重な石造物がある。

【手水石】

神社・寺院には、参拝する際に口をすすぎ、手を洗い身を浄める為の手水石（鉢）が置かれているところが多い。

手水舎（てみずや・ちようずや）と呼ばれ、清水が注がれた手水石の周りに四本の柱を建て、屋根をふくのが一般的である。

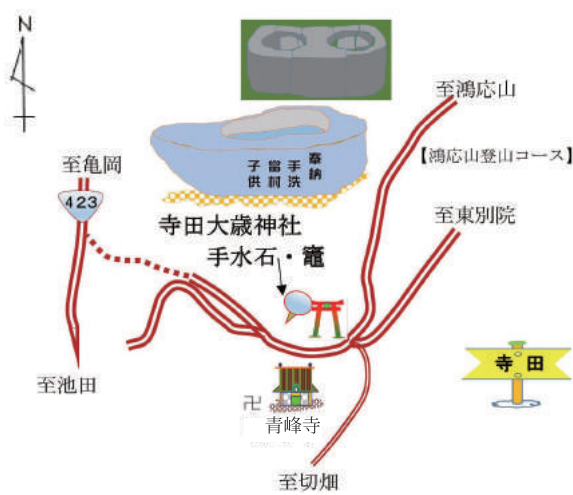
手水石は自然石を使い、「水槽形・水盤形・舟形」等があり、その形は多様である。

この神社の手水石（鉢）は自然石を舟形に彫られている。刻銘は「奉納」「手洗」「當村」「子供中」「明治四年未年」「六月」である。

奉納に「子供中」の刻銘は非常に珍しい。これは村の大人達が子どもの成長を喜び・祈願し、また、神社への感謝の気持ちを表したものであることがわかる。本町においては、他に類を見ない貴重なものである。

【竈】（かまど）

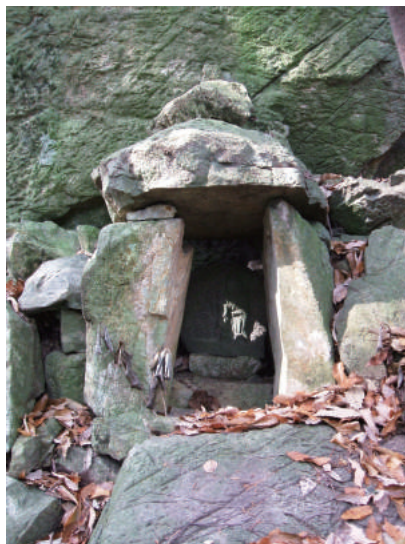
境内、本殿前の階段横に、竈がある。竈で湯を沸かし、熱湯をササで振りまき、厄除・無病息災を願う「湯立神事」が行われた。地元の自然石を加工し、焚口が二つある。また刻銘はなく時代も不詳である。



奉納
手洗
當村
子供中
明治四年未年
六月

寺田役行者の石像

分類 石室
年代 不詳
所在 寺田才ノ神



修験道の祖とされる役(えん)の小角(おづぬ)は、奈良時代に大和国(奈良県)葛城山に住んで仏教を修業し、吉野の金峰山・大峰山などを開いた。牧にも同じものがある。

『続日本紀』は、彼が伊豆に流されたという記事を載せている(文武天皇三年五月条)。彼は呪術をもって評判が高く、そのために讒(ざん)によって遠流に処せられたという。

古来の山岳信仰界においては、そのゆえに、彼の評判は高くなり、役行者の名は広まった。

中世以降修験道の霊山が各地で活気をもつにしたがい、山伏達は、彼を理想の修行者として崇拜するようになり、近世には各所で行者講がつくられた。

寺田の才ノ神にある役行者像は、同村の行者講によって祀られたものである。石室内には、高さは三〇cmの像がある

